The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	神戸市外国語大学 外国学研究 XIV 表紙
Author(s)	
Citation	神戸市外国語大学外国学研究. 1984, 14
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21787
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

神戸市外国語大学　外国学研究　XIV

内陸アジア言語の研究　I

第一部

契丹語解読方法論序説

長田夏樹

第二部

『畏兀児館譯語』の研究
—明代ウイグル口語の再構—

庄垣内正弘

神戸市外国語大学外国学研究所

STUDIES ON THE INNER ASIAN LANGUAGES I

Part 1

An Introduction to the Procedure of Decipherment on the Qidan Scripts

by Natsuki Osada

Part 2

A Study of the Chinese-Uigur Vocabulary Wei-wu-er-guan Yi-yu

by Masahiro Shōgaito

1983

はじめに

中央アジアを中心としたアジア大陸内陸部一帯には，古来アルタイ系，漢蔵緬系，印欧系に所属する数多くの言語が登場してきた。そして，その多くはなお現在も継承者を同地域に保っている。

これら内陸アジア言語に関する報告や研究はその内容や目的に応じて色々の方面から発表されているが，これらをまとめて「内陸アジア言語の研究」と呼ぶことができる。本書はこの「研究」の継続と発展に一役買うことを目的として作成された小冊子であって，表題は些か大袈裟なものとなった。

本書の内容は二部に分かれている。第一部「契丹語解読方法論序説」は長田が執筆し，契丹語解読に関する過去の諸研究を，中国におけるものを中心としながら批評し，解読方法の自らの見解を明らかにしようとしたものである。第二部「『畏兀児館譯語』の研究」は庄垣内が執筆し，「華夷訳語」‘丙種本’である『畏兀児館譯語』のチュルク語の再構を試み，その言語の性格について論じたものである。

なお，本書は神戸市外国語大学外国学研究所に所属する「アジア大陸の言語」研究班の研究活動の一環として出版されたものである。今後も，表題のもとに本書と同程度の分量をもった続編を刊行してゆきたい。

1984年3月10日

神戸市外国語大学外国学研究所長　長　田　夏　樹

第一部

契丹語解読方法論序説

長田夏樹

第二部

『畏兀児館譯語』の研究
—明代ウイグル口語の再構—

庄垣内正弘